



外国出張報告書

平成 26 年 10 月 7 日

1. 出張国名 ベトナム
2. 出張月 平成 26 年 9 月
3. 出張目的 1) 節水灌漑 (AWD) 普及に関わる農家調査
 2) 水田圃場の水文・地理的条件と AWD の導入状況に関わる現地調査：A

4. 成果の概要

1) アンジャン省で AWD を実施する 21 戸の農家に聞き取り調査を実施した。AWD はコメ増収効果があると評価し、隣接農家同士で灌漑のタイミングを合わせるようにしている。AWD 普及の副次的効果として、農家同士の交流の深まりと技術の相互学習がみられた。農家は AWD=間断灌漑と認識し、地下水位を測るためにパイプは利用しない。目視や足の裏の感覚で土壌水分状態を確かめながら、灌漑のタイミングを測っている。したがって、土壌表面の状態と地下水位の関係が一意的にわかれば、農家による記録写真撮影が地下水位簡易推計法として有効かもしれない。

2) アンジャン、カントー、キエンジャン省は、共通して AWD を 1 must (認証種子) 5 reduce (肥料、農薬、種子、水、ポストハーベストロス) の一環として AWD 普及を図っている。AWD のメリットは、コスト減、土壌硬化によるコンバイン導入が 3 省共通で、アンジャン、カントーではコメ増収効果も認められた。

普及制約要因は、田面の均平化 (レーザー・レベリングで対応)、ポンプのグループ利用は適期灌漑が行えない、農民が技術を理解できない、水管理が難しいことなどが指摘された。カントーでは雨期に AWD を行うためにはポンプで強制排水が必要。低湿田の多いキエンジャンでは AWD 実施は乾期に限定される。